

夢（時空を越えて）



夕張市医師会
築詰医院

築 詰 彰 彦

現身うつせみに次元狭間のクライシス
我が靈魂れいこんは奈辺なへんにをわす

我々は時々夢を見ます。高いところから落下しそ
うで、はっと目を覚ます。全身打撲前に目醒める。
夢から目覚めさせるのは何なのか。

これが、潜在的自己なのです。

いざという時の危機に介入して来る。

登山をしていて、目の前に大きな岩が落ちてくる。
心の中で危ないと声がする。ハットして立ち止まる。
目の前を、ゴロゴロと岩石が崩れ落ちる。ハット気
付かせて一瞬止まらせる。これも、大なる自己意
識なのです。

夢の中で死者に会う。実は我々は夢の中で、臨死
体験（靈魂が肉体から離れて、アストラル界サイキ
ック界で浮遊すること）をしているのです。

さて現実、朝起きてルーチン作業（日常所作）
をして、仕事をし、人に会ってほぼ一日終了。テレ
ビでも観て一杯飲んで寝ます。でも、これも演技な
のです。我々は日常を演じているだけなのです。

海を思い浮かべてみてください。大海原から波と
なって打ち上げられるひと雲を思ってください。砂
浜に打ち上げられ、海から離れます。一瞬分離した
かと思うが、また波が来て合体します。そして大海
に戻ります。自己と他者は魂の実在ではないのです。
大きなたいまつに一つの小さなローソクを合体させ
ます。両者とも炎を持っています。ローソクを離す
と、小さく灯っています。合体させて分からなくな
っても、火は灯っています。たいまつを太陽・一つ
の小さいローソクを自己とと思ってよいです。分離
はありません（ワックスの証明）。潜在する自己が
実在なのです。この世（現身）の人格と永遠の自己
（人格）。今現実とと思っているのは、大げさに言えば、
錯覚なのです。限界のある肉体をまとして、演技し
ているだけなのです。永遠の自己は不滅です。肉体
から次元上昇し、サイキック界（4次元）・ノエテ
ィック界（5次元）へ移行する途中なのです。

我々は精神世界スピリチュアルワールドを知らなさすぎです。

昔分裂症・今統合失調症もそうです。昔痴呆症・
今認知症、用語を変えても何も前へ進まないのです。
認知症は、ある意味ではこの世からあの世への移行
離脱の前段階、いわば浮世を忘れるための心の準備
なのかもしれません。

さて、現実をもっと気楽に考えましょう。我々は
死なないのです。消滅しません。死はさなぎから蝶

になるだけです。そして、華麗に舞い続けるのです。

さて、そろそろ駄文もおしまいです。支離滅裂・
雑多になりましたが、お許しください。

これからは、テークイットイージー（気楽にやろ
うぜ）で行きましょう。

では、グッドラック（幸運を）。

干し柿



帯広市医師会
進藤医院

進 藤 恒 彦

埼玉の親戚から今年もダンボールいっぱいの柿が
届いた。もう40年くらい毎年送られてくるありがた
い贈り物である。北海道で獲れないのは柿だけでは
なく蜜柑も同様であるが、蜜柑そのものが40年間変
わらないのに比べ、柿はずいぶん変わってしまった。

40年前は渋柿を甘くした砲弾型の樽柿だったが、
そのうち庭の木にできるような甘柿になり、さらに
最近は立派な富有柿になっている。また、昔は流通
経路が発達していなく1週間以上かかるため、生柿
は途中で痛むので送れなかったらしい。

子どものころ、徳島県の田舎に住んでいたことが
あり、秋になると渋柿をいっぱい縄に吊るして干し
柿を作っていた。子どもは乾くのが待てず、渋が抜
けると取って食べるので、干し柿ができるまでに半
分になってしまう。始めから甘柿を作ればいいのに、
わざわざ渋柿を干し柿にするのは、干し柿にすると
甘柿より渋柿の方が甘くおいしくなるかららしい。
それに昔の言葉に「柿の実は、上の枝は鳥のため、
下の枝は旅人のため、中の枝は自分たちで」という
言葉がある。自分たちには渋柿の方が良かったのか
も。

お正月の鏡餅は上に橙「だいだい（代々）」を乗せ、
下に昆布「よるこぶ」を敷き、干し柿や勝ち栗を飾
るのだけれど、それぞれ意味がある中、干し柿はめ
でたいのかどうか？ ただ「長持ち」だとは思いうし、
食べ物の少なかった時代、正月の食べ物として甘く
美味しかったのだろう。

今の時代、干し柿を知らない人も居るのかも。